

社 報



下足番

ガッチ 入荷しました

600x1200 (10.6kg) 1,000枚

600x1800 (14.5kg) 1,000枚



正面

600x1800



背面

600x1800



下足番とは、客のはきものの出し入れを仕事とする人。日本家屋では座敷に上がるのに、はきものを脱がなければならないため、大勢の人が集る場所で必要とされた。

有名な話では、後の豊臣秀吉が、織田信長に仕えていた頃、名も知れぬ下っ端時代に、信長の下足番をしていた話があります。

ある日の深夜、信長がいきなり起きあがり、「これから出かけるぞ、馬を取れ」と言い出しました。

信長の下足番をしていた、木下藤吉郎(後の秀吉)は、出世の望めるような身分ではありませんでしたが、信長から声がかかったら、いつ何時でも応えられるよう、待機をしておりました。そしてこのときも、信長の足もとに、さっとゾウリを揃えて置きました。ところが、このゾウリが生温かい。信長は、「さては主人の履物に腰をかけていたのか！」と怒鳴りつけました。すると、藤吉郎は、「とんでもないことでございます。おゾウリは胸に抱いておりました。」と言います。

信長は、すぐに部下に命じて、藤吉

朗の懐を調べさせると、たしかに土が出てきました。

信長は、「お前は、本当にゾウリを抱いていたのだな」と言い、大変感心して、藤吉郎の登用下地をつくり、藤吉郎もそれに応えて、さらなる出世を成し遂げ、後年には天下統一を果たしたのです。

また、阪急電鉄の創始者、小林一三(いちぞう)は、「下足番を命じられたら、日本一の下足番になってみろ そうしたら、誰も君を下足番にしておかぬ。」と言ったそうです。

仕事にはいろいろな仕事があります。日の目を見ぬ地味な仕事も、全力でこれに当たり、知恵を出し、工夫を重ねていけば、新しい道も見えてくると言うものです。

それを、「なんだ下足番など誰でもできるわ」と思ってしまえば、誰にでもできる下足番にしかたないのです。知恵や工夫。知識が足りなければ、学ぶ努力をする。こうした努力をすることが、ビジネス人としての前提であります。

楽しく稼ぎたい人は要りません。

当社ホームページは <http://www.forbuild.co.jp> ご覧になれます。

今年も休業災害「ゼロ」！

休業災害を無くすことは、企業として悲願とでも言うべき目標です。

今年も、昨年に続いてこの目標を達成したいものです。

安全第一という言葉があるように、安全は大事です。が、仕事を入手して売り上げを立てて、皆の生活を守るといことも大事です。

ということは、安全第一の意味には生産性を落とすことなく、安全を確保しなければならない、と言う思いが含まれているはずで。

この両者を成立することこそが、安全の目標であります。生産性を落として安全を確保すれば、生活を失います。今年も事故がありませんように。(拝)

2016年 安全成績

■現場災害 H28.1.1-H28.2.7	
休業災害	----- 0
不休災害	----- 0
物損災害	----- 0
その他	----- 0
合計	----- 0
■交通災害 H28.1.1-H28.2.7	
人身災害	----- 0
物損災害	----- 0
合計	----- 0